

JR東労組の再生を妨害した拳句に分裂策動を企てる者たちを許さない盛岡地本見解

2月10日に開催される定期中央委員会を前にして、東京地本、水戸地本、八王子地本の一部職場においてJR東労組からの分裂策動が行われている実態が次々と明らかにされている。ある職場では①新労組に加入するか②JR東労組に残るか③未加入者になるのか、の選択が組合員に迫られている。選択を迫られている組合員は、不安と混乱の中にいる。

JR東労組は3万5千人もの組合員を失った18春闘を「大敗北」と総括した。しかし、「大敗北」と総括できずに「成果」とまで言い放ってきた者たちが、今度は分裂策動を企てている。多くの組合員を不安と混乱に導いたことを反省できないまま、またしても同じ過ちを繰り返しているのである。組合員と共に歩むことなく、18春闘をリードした指導者としての面子を守ることに躍起となる者たちがつくる組織に未来はない。

盛岡地本は、不安と混乱の中にいる組合員のみなさんに対し、「新生JR東労組の旗のもとで共に支え合いながら、共に歩を進め、共に未来を創ろう！」と訴える！そして、分裂策動を企て組合員に不安と混乱を与えている者たちを絶対に許さず、断固たたかうことを明らかにする！

分裂策動者たちは、あたかも不当労働行為に対して第3者機関に委ねるたたかい方こそが正しいかのような言動を行い、新組合への加入を迫っているが、第3者機関に委ねるたたかいを行った国労が不当労働行為も組合脱退も止めることが出来なかった現実を学ぶべきである。また、法人格を持たない地本が判決を受けることが出来ないにも関わらずに水戸地本が労働委員会に申し立てたことや、東京地本が個人訴訟者の氏名や団体交渉議事録すら本部に伝えることもせずに「たたかいを放棄する中央本部」とレッテル張りする様からは事態の解決よりも、分裂組織への誘導のために行っているとすら見えるのである。不当労働行為に対するたたかいは組合員に寄り添い、共に決意を固め合い、職場からのたたかいを展開しながら、許さない組織体制を構築することが大切である。それが東労組方針であり、分裂策動者の「たたかいを放棄する中央本部」なる言動は、許すことはできない。

春のたたかいがスタートした。春闘は経団連が賃上げについて「全員一律に報いる方法だけでなく、職務や成果を重視した配分が適切」と提起したほか、年功型賃金と終身雇用を柱とする日本型雇用慣行を見直す必要性まで提起するなど、大きな変化を迎える社会環境の中でのたたかいとなる。また、3月のダイヤ改正のほか、各種施策に対しても真摯に会社との議論を創ることによって組合員が「安全・健康・ゆとり・働きがい」を実感できる職場を創り上げていかなければならない。いまこそ団結が必要なときに、分裂策動によって破壊行為を行うことを看過することはできない。

盛岡地本は組合員の雇用と利益を守ることを第一義に中央本部と共に新生JR東労組運動を展開する。そのたたかいを妨害する者たちとは断固たたかうことを明かすと共に新生JR東労組運動への全組合員の結集を訴え、盛岡地本見解とする。

2020年 1月24日

東日本旅客鉄道労働組合盛岡地方本部